地区	市町村	県史番号	第46図	遺跡名	微隆起線文	細隆起線文	隆起線文	その他	尖頭器	神子型柴石斧	神子柴型尖頭器	有茎尖頭器	石鏃	礫器	石皿	石槍	掻器	有溝砥石	砥石	打製石斧	彫器	遺構	その他	文献
南信	伊那市	57	39	月見松								○											細石刃核	伊那市教委 1969
				月見松																				藤沢宗平 1969
				月見松																				藤沢宗平・林茂樹 1969
				月見松																				林茂樹 1976
				月見松																				伊那市教委 1977
南信	高森町	4	40	増野川子石								○												日本道路公団名古屋支社・長野教委 1973
南信	高森町	5	41	増野新切								○												日本道路公団名古屋・長野教委 1973
				増野新切																				大沢 1968
南信	豊丘村	76	42	伴野原					○			○											ナイフ形石器	今村 1977
				伴野原																				豊丘村教委 1977
				伴野原																				今村 1978
				伴野原																				豊丘村教委 1978
				伴野原																				豊丘村教委 1979
〃	諏訪市	2	43	曽根				爪形文				○				○								長野県史刊行会

第62表　縄文時代草創期長野県内遺跡地名表 (3)

関　孝一 1983 「湯倉洞窟遺跡」『長野県史・考古資料編１の２』

関　孝一 1973 「湯倉洞窟遺跡 （第１次）」『日本考古学年報』 24

関　孝一　1974 「湯倉洞窟 （第２次）」『日本考古学年報』 25

長野県史刊行会　1988 『長野県史』 考古資料編　遺物・遺構　1-4

林　茂樹　1959 「神子柴遺跡発掘調査略報」 1 『上伊那教育』 2

林　茂樹　1960 「長野県上伊那郡箕輪村神子柴遺跡出土の円鑿型石斧について」『信濃』Ⅲ-12-6

林　茂樹　1961　a 「伊那の石槍」『伊那路』 5-3

林　茂樹　1961　b 「神子柴遺跡の意味するもの」『上伊那教育』 26

森　嶋稔　1988 「生産と生活の道具」『長野県史』 考古資料編　1-4

第２節　表裏縄文土器について

1　表裏縄文土器の器形

貫ノ木遺跡、東裏遺跡日向林Ａ遺跡、七ツ栗遺跡について観察した。観察は口縁部片で、表裏縄文土器と確認できる個体についてのみ分析を行った。したがって、分類は全点を把握しているものではない。分類可能な破片数は貫ノ木遺跡24点、東裏遺跡153点、日向林Ａ遺跡216点、七ツ栗遺跡29点である。

(1)　胎土

二種の土器胎土が観察される。第１種は黒雲母や白色透明の石英粒（火山灰）が多量に含有しザラザラとした器面をもつもの。第２種は白色の長石と思われる粒が多量に含有しているもの。大きな粒のものや細粒のものなどさまざまであるが、前者がザラザラとした器面のものに対し、硬質な感じがあるが細粒のものは表面に粉っぽさが残るものもある。

第１種の含有物の多い遺跡は、東裏遺跡である。約80％近くがこの類であった。第２種が多い遺跡は、

貫ノ木遺跡である。約80％を越えるものがこの類であった。次いで日向林Ａ遺跡の約65％、七ツ栗遺跡の約60％が第２種であった。

(2)　口唇部形態

口唇部の先端の形態は丸頭状と角頭状に分類される。しかしその口唇部下では肥厚になるものなどがあり更に細かく分類すると口唇部下には次のような形態があった。

第１種　先細り丸頭状
第２種　先細り角頭状
第３種　非肥厚丸頭状
第４種　非肥厚角頭状
第５種　肥厚丸頭状
第６種　肥厚角頭状
第７種　口唇部下段状

各遺跡に共通して口唇部形態は第４種非肥厚角頭状口唇部が多い（七ツ栗遺跡53％、日向林Ａ遺跡49％、貫ノ木遺跡33％、東裏遺跡30％）。貫ノ木遺跡図版77―５のような第１種先細り丸頭状のものは少ない。日向林Ａ遺跡では第７種口唇部下段状が認められる（図版189―98など）。この形態は日向林Ａ遺跡特有である。

貫ノ木遺跡で特徴的な形態は第１種、第２種、第４種である。東裏遺跡では第６種、そして第２種と第４種である。日向林Ａ遺跡と七ツ栗遺跡では第４種が主な形態であった。

(3)　口縁部器厚

口縁部の器厚は次の通りである。

貫ノ木遺跡　　3.5mm～8.0mmの範囲。5.5mmのものが多い。
東裏遺跡　　3.5mm～8.5mmの範囲。6.5mmのものが多い。
日向林Ａ遺跡　4.5～9.5mmの範囲。6.5mmのものが多い。
七ツ栗遺跡　　5.5～8.5mmの範囲。6.5mmのものが多い。

(4)　口縁部形態

口縁部形態には４種類のものが観察される。

第１種　直立的なもの
第２種　緩く外反するもの
第３種　強く外傾
第４種　「く」の字状に外反

貫ノ木遺跡では第２種が63％、第３種が14％、第４種が21％。日向林Ｂ遺跡では第１種が２％、第２種が75％、第３種が23％。七ツ栗遺跡では第２種が93％、第３種が７％。東裏遺跡では第１種が４％、第２種が63％、第３種が21％、第４種が12％の構成となっている。

第２種が、どの遺跡でも大半を占めている。第１種のものは東裏遺跡や日向林Ａ遺跡で認められるが全体の数％未満を占める程度である。第４種は東裏遺跡(図版108―121など)と貫ノ木遺跡（図版78―31など）に、10～20％程度の比率を占めている。

2　表裏縄文土器の文様分類

表裏縄文土器は施文効果と施文方法を重視して分類を行った。

１施文具、２施文方向、３施文効果、４施文の範囲を４項目に注目し、分類した（各遺跡の表裏縄文土

器の分類番号と一致させた)。

(1)　第１類

縄文が多方向から施文されたもの。異種の縄文が施文されている例はほとんどない。「ＬＲ」が多く施文されている。貫ノ木遺跡の図版77-５のものが代表例である。

この土器の接合部は接合しようとする粘土帯を挟むように接合し、その接合面の外面は粗く施文した後に、飛び出した粘土を押さえるために、再び接合部のみに縄文を施文している。縄文の施文が装飾性よりも、整形のための施文であったことを示していると思われる。

(2)　第２類

器表外面および内面、口唇端部に縄文を施文し、最後に器表の口唇端部直下に改めて、縄文を施文することを特徴とする。日向林Ａ遺跡に特徴的な施文法である。口唇端部下の施文は、その下の胴部施文と施文方向が異なり、細い帯状のように明確に分離するものがある。日向林Ａ遺跡の第２類が代表例である。口唇端部の縄文施文によりはみ出した粘土を、押さえるために施文が行われたと思われる（図版188―72～81など）が、帯状の施文が装飾的効果を生み出しているもの（図版189―93、図版190―113など）があり、整形のための施文から装飾化したものと思われる。

(3)　第３類

「縦走縄文」が器表外面に施文されるもの。「ＲＬ」の原体で施文されたものが多い。器形は円錐形と砲弾形の二者がある。

円錐形の日向林Ａ遺跡出土例（図版192―139）を観察すると、緩やかに口縁部が外傾し、そのまま底部に至る器形をとる。器表全外面に縦走縄文が施文される。口唇端部に縄文が施文されない。

砲弾形の東裏遺跡出土例（図版112―175）では、口縁端部が指つまんだようにわずかに開き、口縁部が直立し、胴部がやや膨らみながら底部にいたる。口唇端部に縄文が施文され、器表全外面に縦走縄文が施文される。口縁部内面に二段から三段の斜縄文が施文されている。

(4)　第４類

器表外面の縄文施文が横方向に条が走る「横走縄文」をこの類とする。「ＬＲ」のものが多用されている。不明確なものもあるが、口唇端部に縄文施文される。口縁部内面には一段ないし二段の斜縄文が施文される。

胴部、底部破片に横走縄文が施文される破片が認められることから、器表全外面に横走縄文が施文されていると理解している。なお、内面には認められないことから、内面の縄文施文は口縁部のみであろう。

(5)　第５類

縄文を縦方向から施文した「縦位施文」により、「斜縄文」が施文されるものをこの類とする。「ＬＲ」の単節縄文のものが多く施文されている。口唇端部に縄文が施文されるものと、されないものの二者がある。口縁部内面には二段から三段の斜縄文あるいは横走縄文縄文が施文される。

(6)　第６類

縄文を横方向から施文した「横位施文」により、斜縄文が施文されるものをこの類とする。「ＬＲ」の単節縄文が多用されている。口唇端部に縄文が施文されるものと、されないものの二者がある。口縁部内面には二段から三段の斜縄文あるいは横走縄文縄文が施文される。

(7)　第７類

器表外面に特殊な施文をこの類で一括した。

ａ　外面口縁部下位が無文帯で、その下に縄文が施文され（破片が小さく縄文が施文されているか確認できないものもある)、内面にも縄文が施文されるもの。無文帯は口唇部下位に細いものが設けら

れるものから、やや広いものまである。

b　外面縦帯状に施文されたもの。

c　外面口唇部下に若干の有段部があるもの(口唇部形態第７種)。

d　絡条体の原体を押圧したもの。

(8)　第８類

表裏撚糸文のものをこの類とした。口唇端部に撚糸文が施文されるものとされないものがある。内面施文は様々で、斜め、横方向のものがある。施文範囲は小破片であり、明確にできない。

内面施文は、東裏遺跡などで胴部下半まで施文されたのが認められるが少ない。大半は口唇部下約１cm～2.5cmである。

第１類は様々な方向に原体が回転されることが特徴である。条が整わないものが多く、器面を滑らかにすることに重きをおいている例が多いようである。特に貫ノ木遺跡の図版77-５のように輪積み接合部を強化するように施文されている例がある。また内外面に指頭圧痕が明確に残る。

これらの特徴はお宮の森遺跡（上松町教委他　1995）の表裏縄文土器に類似する。しかし、内面の施文は口唇部下のみで胴部下半までは達していない。

第２類には第１類のものと類似するものがある。一見、異方向羽状の縄文にみえる。しかし、本類は口縁部と口唇部の施文後に口唇部下位に縄文を施文するという特徴があり、第１類とは異なる。口唇部下位に縄文を施文することに特徴がある。口唇部に二回以上の施文（口唇部と口唇部直下）をすることにある。この施文は、口唇部下位に横位方向に斜縄文を施文しており、胴部と施文効果が異なる。これは、撚糸文土器の井草Ⅰ式の斜縄文帯下に縦位施文をする文様に類似する。口唇部施文にこだわりがあること、帯状の施文にしては狭いが、口唇部下に胴部施文とは異なる施文が行われることなど、井草Ⅰ式に共通する。

第７ｃ類（口唇部形態第７種）のものは、口唇部下に口縁部の巻き込みなどの有段部に施文したものである。第２類の範疇に入るもので、撚糸文土器群の口唇部文様帯に類似すると思われる。

第３類は縦走する縄文土器である。特徴的な土器は東裏遺跡図版112―175、日向林Ａ遺跡図版192―139である。東裏遺跡のものは砲弾形胴部で、直線的に口縁部にいたる器形のものであり、日向林Ａ遺跡の例は尖底部殻口縁部に向かって緩やかに外傾して口縁部いたる器形である。前者は撚糸文土器の井草大丸式の器形に類似する。後者は夏島式の土器の形態に類似する。前者には口唇部の施文が明確であり、角頭状である。後者は内面側にあたる口唇部下に施文されている。このように、縦走する表裏縄文土器は撚糸文前半期土器群に類似点が多い。

第３類～第５類までは条が整っているものが多く、第１類の施文方向が多方向なものと異なる。

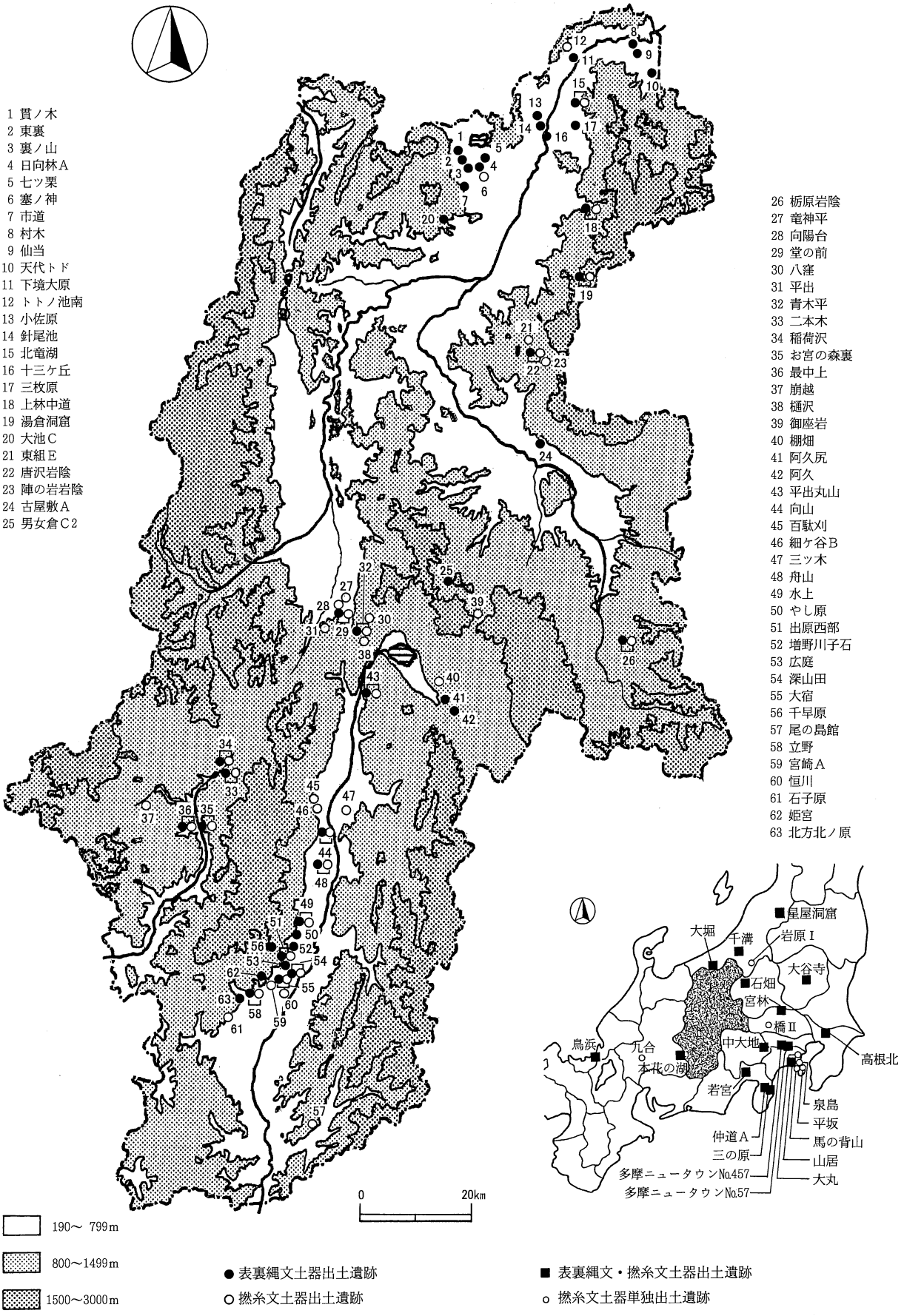
第７ａ類は口縁部に無文部を持つ。無文帯のものもある。無文部の下は異方向の施文や、粗い施文が見られる。これは撚糸文土器群の手抜き手法による施文の荒廃に類似していると思われる。

第８類の表裏撚糸文土器(日向林Ａ遺跡図版199―262など)は口縁部が強く外反しており、「く」の字状である。口唇部には施文があり多帯（口唇部に２～３回帯状に施文する）化せず、口唇部が角頭状に肥厚する。これらは、撚糸文土器群の大丸遺跡の土器に類似する。

3　表裏縄文土器の段階分類

以上の分類から本遺跡群表裏縄文土器を４段階別に大別することができる。段階別に考察すると次のようになる。

(1)　第１段階



第48図　表裏縄文・撚糸文土器出土遺跡分布図

					土器														石器				遺構			
第48図番号	長野県史遺跡番号	遺跡名	市町村	所在地	表裏縄文	撚糸文	縄文	ネガ格子目	市松文	格子目	山形文	楕円文	異種多段押型文	船形沈文	押型文	無文	その他の土器	鍬形鏃	特殊磨石	磨製石鏃	砥石	住居址	集石	その他	文献
1	47	貫ノ木	上水内郡信濃	野尻	○										○										
2	71	東裏	上水内郡信濃	柏原	○		○			○	○	○				○									
3	72	裏ノ山	上水内郡信濃	柏原	○																				
4	106	日向林A	上水内郡信濃	古間	○					○	○	○			鋸歯										
5	107	七ツ栗	上水内郡信濃	古間	○						○	○			鋸歯										
6	128	塞ノ神	上水内郡信濃	古間・塞ノ神		○	○				○	○			鋸歯		沈線								
7	167	市道	上水内郡信濃	大井・市道	○					○	○	○			○										
8	175	村木	下水内郡栄村	堺・箕作村木	○							○													
9	176	仙当	下水内郡栄村	堺・月岡仙当	○					○	○	○			菱目										
10	179	天代トド	下水内郡栄村	堺・天代・トド	○										○										
	184	鳴沢頭Ⅰ・Ⅱ	飯山市	一山・下境鳴沢頭			押圧				○	○ ○			平行		沈線		○ ○						飯山市教1992
11	185	下境大原	飯山市	一山・下境大原	○								○				沈線		○ ○						
12	187	トトノ池南	飯山市	一山・下境		○	○			○	○	○			変形										
13	188	小佐原	飯山市	旭・小佐原	○																				
14	189	針尾池	飯山市	常盤・長峰	○							○													
15	192	北竜湖	飯山市	瑞穂・小菅	○	○	○						○		菱目										
16	193	十三ケ丘	飯山市	飯山・直坂	○						○	○													
17	200	三枚原	下高井郡木島平村	穂高・三枚原	○						○	○													
18	205	上林中道	下高井郡山ノ内町	平穏	○	○	○				○	○					沈線								
19	206	湯倉洞窟	上高井郡高山村	牧・湯沢	○	○	○				○	○			綾杉	○									
	207	黒部	上高井郡高山村	高井		○	○			○	○	○			変形										
	209	石小屋洞窟	須坂市	仁礼・仁礼山			○				○	○				○									
	147	天道下	上水内郡信濃町	穂波		○	○			○	○	○			その他	○									
20	216	大池C	長野市	浅川・飯綱大池	○										綾杉										
	220	稲場	長野市	松代・西条稲場		○					○	○													
	225	古屋敷B	更埴市	八幡古屋敷芝山		○				○	○														
	226	鳥林	更埴市	桑原		○	○	○		○	○	○													
	229	佐野山	更埴市	桑原		○				○	○	○					沈線								
	230	池尻	更埴市	桑原			○					○			菱形										
	239	石戸山	小県郡真田町	長・菅平		○					○	○				○			○						長村誌1967・上田小県誌1995
21	244	東組E	小県郡真田町	長・菅平		○	○			○	○	○					沈線	○ ?	○		○				菅平研1970・八木1977・上田小県誌1995
	244	東組E	小県郡真田町	長・菅平		○	○			○	○	○				○	沈線	○ ?	○		○				菅平研1970・八木1978・上田小県誌
	251	唐沢A	小県郡真田町	長・菅平			○					○					沈線		○						菅平研1970・上田小県誌1995
22	261	唐沢岩陰	小県郡真田町	長・菅平十の原	○	○						○							○						永峯・樋口1967
23	262	陣の岩岩陰	小県郡真田町	長・菅平十の原		○					○	○			鋸歯				○						丸山1968
	267	フロンティア牧場	小県郡真田町	長・菅平		○					○	○			○		沈線		○						菅平研1970
24	271	古屋敷A	小県郡東部町	祢津・古屋敷	○					○	○	○					沈線？								東部町教委1986・上田小県誌1995
	273	大門田	小県郡東部町	和・海善寺		○																			東部町教委1978
	274	鍛冶屋	小県郡東部町	和・海善寺		○	○			○	○	○					刺突文		○		○				東部町誌1990・東部町教委1988・上田小県誌1995
	277	塚穴	小県郡東部町	滋野・片羽		○					○														東部町教委1984・上田小県誌1995
	280	桃畑	小県郡東部町			○																			上田小県誌1995
	297	男女倉B	小県郡和田村	男女倉		○					○														和田村教委1975・上田小県誌1995
25	298	男女倉C2	小県郡和田村	男女倉	○		○			○	○	○					沈線	○ ?	○	○	○				和田村教委1975・上田小県誌1995
	299	男女倉F	小県郡和田村	男女倉		○					○	○							○			○			和田村教委1975・上田小県誌1995
	300	男女倉G	小県郡和田村	男女倉		○									○？		沈線								和田村教委1975・上田小県誌1995
	306	金塚	北佐久郡望月	春日		○					○	○					沈線								望月町教委1982
	309	岩清水	北佐久郡望月	望月・岩水・唐松		○					○	○					沈線								望月町教委1986
	312	塚田	北佐久郡御代田町	塩野			○			○	○	○													御代田教委1994
	316	上滝	南佐久郡臼田	湯原・上滝		○				○	○	○					沈線								

第63表　長野県内表裏縄文土器出土遺跡表　(1)

第48図番号	長野県史遺跡番号	遺跡名	市町村	所在地	表裏縄文	撚糸文	縄文	ネガ格子目	市松文	格子目	山形文	楕円文	異種多段押型文	船形沈文	押型文	無文	その他の土器	鍬形鏃	特殊磨石	磨製石鏃	砥石	住居址	集石	その他	文献
	317	後平	南佐久郡佐久	大日向・下川原		○				○	○	○					沈線								佐久町教委1987
26	323	栃原岩陰	南佐久郡北相木村	栃原	○	○	○			○	○	○							○		○				小松1976・小松1978
	342	クマンバ	大町市	平・白浜		○					○														
	346	白浜Ⅱ	大町市	平		○																			
27	395	竜神平	塩尻市	片丘・南熊井		○	○		○	○	○	○				○			○			○	○		
28	397	向陽台	塩尻市	桟敷		○	○			○	○	○				○			○			○	○		
29	398	堂の前	塩尻市	長畝	○	○	○			○	○	○						○	○						
	399	福沢	塩尻市	長畝		○	○		○	○	○	○				○		○					○		
	403	祢ノ神	塩尻市	柿沢		○	○				○	○											○		
30	404	八窪	塩尻市	東山		○	○	○	○	○	○	○				○		○	○			○	○		
	405	青木沢	塩尻市	東山			○					○				○			○						
	407	一夜窪	塩尻市	広丘・高出			○			○	○	○				○			○					○	
31	410	平出	塩尻市	宗賀・平出		○	○				○	○													
	412	野辺沢	塩尻市	宗賀・洗馬		○					○	○													
	414	上の宮水神	塩尻市	北小野・勝弦		○	○				○	○						○							
	415	諏訪洞	塩尻市	北小野・勝弦		○					○														
32	416	青木平	塩尻市	北小野・勝弦	○	○	○				○	○						○							
	417	大畑	塩尻市	北小野・勝弦		○	○				○														
	419	古山	塩尻市	北小野・勝弦		○	○				○	○													
	420	五月ヶ丘	塩尻市	北小野・勝弦		○					○	○													
	421	糠塚	塩尻市	北小野・勝弦		○				○	○	○						○	○						
	422	十五社平	塩尻市	北小野・勝弦		○				○	○	○													
	423	石塚	塩尻市	北小野・勝弦		○	○			○	○	○				○		○	○						
		高出	塩尻市	広丘	○					○	○	○													八幡1972
33	431	二本木	木曽郡日義村	小沢・二本木	○	○	○	○	○	○	○	○				○									神村1983
34	432	稲荷沢	木曽郡日義村	元原	○	○	○	○	○	○	○	○				○									神村1983
	441	小野	木曽郡木曽福島町	黒川・小野			○				○	○				○		○			○			土坑	未報告
	444	生物研究所	木曽郡木曽福島町	児野		○				○	○	○													
35	456	お宮の森裏	木曽郡上松町	小川・久保寺	○	○	○		○	○	○				大鼻式	○					○	○		土坑	未報告
	457	サイの神	木曽郡上松町	小川・徳原	○	○			○	○	○	○		○											開田村教委1986
36	463	最中上	木曽郡上松町	小川・西中	○	○		○	○	○	○	○			東海系				○				○		上松町教委1993
	470	林の平	木曽郡上松町	小川・西中			○			○	○	○													未報告・開田村教委1986
	471	瀬戸原2	木曽郡三岳村	瀬戸原		○																			
	477	麻生	木曽郡山口村	山口		○																			
	479	川原田	木曽郡山口村	山口		○																			
37	481	崩越	木曽郡王滝村	崩越		○									○										大滝村教委1982
	487	管沢B	木曽郡開田村	西野・管沢		○									○										
	491	長原	岡谷市	長地		○	○				○	○						○		○					会田1981
38	495	樋沢	岡谷市	樋沢		○	○		○	○	○	○							○		○	○			岡谷市教委1987
	507	大平	諏訪郡下諏訪	東俣大平		?						○												土坑	
	527	大安寺	諏訪市	湖南・北真志野			○		○	○	○	○													青木1992
39	535	御座岩	茅野市	北山白樺湖		○	○	○	○	○	○	○						○						岩陰	宮坂・宮坂1966
	537	栃窪岩陰	茅野市	北山柏原		○	○				○	○				○								岩陰	宮坂・宮坂1966・八幡・宮坂1967・茅野市教委1971a
40	541	棚畑	茅野市	ちの本町		○	○			○	○	○				○		○	○			○		配石	茅野市教委1971b
	550	金山沢北	茅野市	金沢判ノ木		○	○				○	○							○				○		長野県教委1981a
	551	頭殿沢	茅野市	金沢御狩野		○	○		○	○	○	○							○				○		長野県教委1981b
41	552	阿久尻	茅野市	金沢木舟	○						○														
42	556	阿久	諏訪郡原村	柏木	○						○	○													長野県教委1982a・原村1985
	560	一の沢	諏訪郡富士見	富士見		○	○				○	○						○	○					土坑？	長野県教委1976b
	561	御射山西	諏訪郡富士見町	御射山神戸			○				○	○				○		○	○		○？		○	土坑	長野県教委1981c
43	569	平出丸山	上伊那郡辰野	平出	○	○	○		○	○	○	○					沈線	○	○					焼土	辰野町誌編纂委
	574	荒神山おんまわし	上伊那郡辰野町	樋口		○				○	○	○							○						辰野町教委1991
	579	萱野	上伊奈郡箕輪	三日町		○				○	○	○					沈線	○	○				○	小竪穴	
	582	下の観音	上伊奈郡箕輪	三日町・上棚			○																		箕輪町誌編纂委
	583	粟飯	上伊奈郡箕輪	三日町・尾須野			○					○													箕輪町誌編纂委
	589	矢田	上伊奈郡箕輪	福与			○				○	○													箕輪町誌編纂委
44	593	向山	上伊那郡宮田	向山	○	○	○	○	○	○	○	○							○			○			友野1876
	596	今泉	伊那市	山寺		○				○	○						○								林1964・伊那市教委1977b
45	598	百駄刈	伊那市	西春近宮の原		○			○			○							○					土坑	長野県教委1973a
46	600	細ヶ谷B	伊那市	西春近細ヶ谷		○	○	○	○	○	○	○							○					土坑	長野県教委1973a
	602	北丘B	伊那市	東春近・木裏原		○						○													長野県教委1973a
47	603	三ツ木	伊那市	東春近・北福地		○		○	○	○	○	○							○			○	○		伊那市教委1967・八幡1972・伊那市史1984・林1984

第63表　長野県内表裏縄文土器出土遺跡表　(2)

第48図番号	長野県史遺跡番号	遺跡名	市町村	所在地	表裏縄文	撚糸文	縄文	ネガ格子目	市松文	格子目	山形文	楕円文	異種多段押型文	船形沈文	押型文	無文	その他の土器	鍬形鏃	特殊磨石	磨製石鏃	砥石	住居址	集石	その他	文　献
		大境	伊那市	西春近宮の原		○			○		○	○		○											長野県1981
48	604	舟山	駒ヶ根市	赤穂小町屋	○	○					○	○												小竪穴	駒ヶ根市教委1971b・1972・太田1958林1971・田中1972
	605	養命酒	駒ヶ根市	福岡大徳原		○				○	○	○											○	小竪穴	駒ヶ根市教委1974
	607	横山	駒ヶ根市	中沢		○	○		○		○	○				○		○					○		林1957・1962・神村1979・林・気賀沢1979
49	609	水上	下伊那郡松川町	上片桐水上	○	○						○													長野県教委1973c・下伊那史1991
50	610	やし原	下伊那郡松川	大島やし原	○						○	○			○										長野県教委1973c
51	612	出原西部	下伊那郡高森	出原	○	○									○										
52	613	増野川子石	下伊那郡高森町	山吹・増野	○		○				○										○				長野県教委1973d・酒井1983・伊那史
53	615	広庭	下伊那郡高森町	広庭	○																				高森町教委1980・下伊那史1991
54	616	深山田	下伊那郡高森	吉田	○	○						○			○							○		土坑	
55	617	大宿	下伊那郡高森	吉田	○	○		○	○	○	○	○										○		土坑	
56	618	千早原	下伊那郡高森	吉田	○						○												○	土坑	未報告
	619	上の平	下伊那郡高森	吉田			○				○	○													未報告
	620	半牧新田原	下伊那郡高森	市田・牛牧		○				○	○											○	○		未報告
	621	上平	下伊那郡高森	山吹		○						○													未報告
57	623	尾の島館	下伊那郡南信濃村	南和田・尾の島		○		○		○							押圧								伴1970・1971・1974・伴・小岩井1970南信濃村教委1986
	624	石割	下伊那郡清内路村	石割		○					○	○										○	○		下伊那郡史1991
		おち	下伊那郡阿智	駒場市の沢		○				○															長野県　1981
		十座	下伊那郡売木	南部一十座		○					○	○													長野県　1981
58	625	立野	飯田市	北方	○	○	○	○	○	○	○	○													松島1955・1957・1983・下伊那郡史
	626	北田	飯田市	上久堅		○		○		○	○	○							○			○			飯田市教委1988
59	628	宮崎A	飯田市	座光寺		○			○						○							○			長野県教委1971a
60	629	恒川	飯田市	座光寺		○									○									小竪穴	飯田市教委1986・1991a・b
61	630	石子原	飯田市	山本		○	○	○	○	○	○	○							○		○	○?		土坑	長野県教委1973c
62	631	姫宮	飯田市	上黒田	○		○				○	○										○			上郷町教委1981・下伊那誌1991
63	633	北方北ノ原	飯田市	北方	○												爪形文								未報告
		城	飯田市	竜江今田船渡		○					○						○								長野県　1981

第63表　長野県内表裏縄文土器出土遺跡表　(3)

第１類の土器の中で、条の整っていない異（多）方向施文のものをこの段階とする（註）。第１類は、指頭圧痕が内外面に多く、外面施文が条の一定でない異方向施文であるという特徴から、撚糸文土器群と共通する点が少なく、直接つながりのないと思われる。指頭圧痕の多いものは器面整形の痕と思われ、施文も装飾性よりも整形が重視した一群と思われる。

(2)　第２段階

第２類をこの段階とする。第２類の特徴は唇部下に小帯状に縄文が施文されるところにある。撚糸文土器群井草式の特徴と類似するのである。土器文様の装飾化が整形を上回り始めた段階と考えられる。指頭圧痕が若干平滑化している。

(3)　第３段階

第３類から第６類に分類した条の整った縄文施文をする段階である。第３類は、器形の特徴や施文の条が縦走する施文効果など、撚糸文土器群の大丸式や夏島式に類似する。第２段階に装飾性のある施文がさ

（註）　異方向と分類としたものの中に条の整った装飾性のある羽状縄文を含めている（図版110―158～160）これは異方向施文の範疇に入ると思われるが、この段階の名から除くものとする。

れるようになるが、第３段階になると口唇部施文にこだわりを次第になくし、条を整え内面も若干平滑化しているように思える。第８類の表裏撚糸文土器もこの段階のものと思われる。

これらの段階を撚糸文土器群と比べると第１段階は撚糸文土器群以前の段階、第２段階は撚糸文土器群の初期の段階、第３段階は撚糸文土器群の大丸夏島式段階とみることができよう。

(4)　第４段階

口縁部に無文部があるもの（第７類ａ）をこの段階としたい。無文部は磨りけしと思われるものもある。内面施文が粗いもの（図版108―123～127など）もある。

また、本遺跡群の表裏縄文土器には各段階に非常に器厚の薄いものと厚いものが存在する。第３段階にも薄手のものは存在する（図版192―143）が、概して第１段階には薄いものが多い。器厚が薄い＝小型土器とみることもできるが、表裏縄文土器群の系統の差と捉えることもできよう。今後の分析に託したい。

分類する段階で、土器片が３cm方形以下のものが多く、このような小さな破片で分類してよいものかかなり迷った。しかし、大きな破片のみであれば、個体や遺跡に偏りが出てしまうと思われ、観察可能な小さな口縁部破片も分類に取り入れた。できる限りの口縁部の拓本も掲載するように心がけた。今回の分類方法が最良であったかどうか若干疑問も残る。しかし、表裏縄文土器研究の何らか糸口になれば幸いである。

最後に長野県内で表裏縄文土器と撚糸文土器が出土している遺跡について表にまとめた。全遺跡を網羅してはいないが、長野県内の遺跡地図と照らし合わせて参照願いたい。

参考・引用文献

上松教育委員会他　1995 『お宮の森裏遺跡』

原田昌幸　1991 『撚糸文系土器様式』 考古学ライブラリー61　ニューサイエンス社

第３節　土坑について

今回報告した信濃町周辺の各遺跡からは、数多くの土坑が発見された。各遺跡ごとに分類し報告した。本章では、これら各遺跡の土坑を全体的に観察することで、遺跡を越えてある程度の広さの地域における土坑の様相を観察したい。

１　土坑の分類

平面形、断面形、深さ及び内部施設を分類の基準とした。都合、17類に分類できた。

第１類：平面形態が長方形あるいは長方形に近い楕円形を呈する。大きさはほぼ1.5×1.2m前後。断面形は箱型で、深さは100～150程度。土坑の底に小さな穴（逆茂木痕と考える）が伴う。

星光山荘Ａ、星山山荘Ｂ、七ツ栗遺跡では第１類、貫ノ木遺跡では第５類としている。

第２類：平面形態は径約1.5m前後の円形ないし円形に近い楕円形。断面形は箱型で、深さは50未満。内部施設は無い。

星光山荘Ａ、七ツ栗遺跡では第２類とした。

第３類：平面形態は径約85cm前後の円形を呈する。深さ約0.5～１mの浅い箱型の断面形呈する。内部施設は無い。

貫ノ木、西岡Ａ遺跡の第２類、大久保南遺跡のＳＫ０３が本類に相当する。